



## 卵か幼生か

### - ソフトコーラルの繁殖 -

研究所では、毎朝 10 時に海水温を測定しています。海の生き物たちの暮らしは、周囲の温度に影響されることも多いので、それは大切な資料になるのです。ちなみに、2001 年から 2007 年までの 5 月 1 日の水温は 23.4~25.1 でした。実は 2006 年は特別に水温が高かったもので、その値 (25.1) を別にすると 23.4~24.4 で、大体 24 前後でした。それに比べると、去年 (2008 年) は 22.8 で、ずいぶん寒い年だったといえます。けれど、この年はその後急に水温が上がり、3 日後の 5 月 4 日には例年並みの 24 をこえました。さて、では今年はどうでしょう。実は、今年の 5 月 1 日の水温は 22.6 で、去年よりもさらに低いのです。そして、去年のような急上昇もなく、5 月 10 日で 23.2 と、すこしずつ上がってきているとはいえ、まだ低いままです。海の生き物たちも、もしかしたら、いつもと違う水温にとまどっているかもしれません。研究所で気にしているのは、サンゴの産

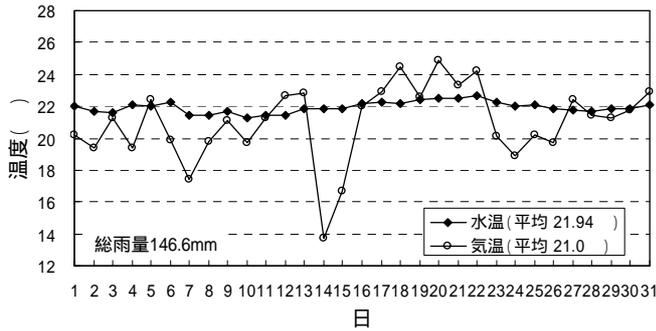
卵日です (きっとみなさんの中にもそういう人は少なくないでしょう)。これまでの調査の結果から、水温が産卵に影響をあたえると考えられ、2003 年以降を見ても、サンゴ産卵初日の水温が 24.5 より低かったことはありません (この値は朝 10 時のものですから、夜の産卵時はもう少し高いと思われます)。これが本当のことなのか、この水温がサンゴの産卵にどんな意味を持つのかを判断するには、まだまだ研究が必要で、そのためにも今年もまた研究所ではサンゴの産卵調査をおこなおうと予定しています。

サンゴが何日に産卵するかも大事ですが、何時にどんな様子で卵や精子を産み出すのかも大切なことです。それを調べるには、産卵しそうな時に海の中で観察するのが一番確実です。それで、毎年夜な夜なマジノハマに潜っていますが、そこで見ることでできるのはサンゴの産卵だけではありません。ほかの生き物たちも時折盛んに繁殖行動をおこなっています。ナマコやヒトデが放卵・放精したり、カニが幼生を放ったり、アナサンゴモドキがクラゲを出したり (アムスルだより No.67) しています。そして、去年は、2 種のソフトコーラルの繁殖も見ることができました。

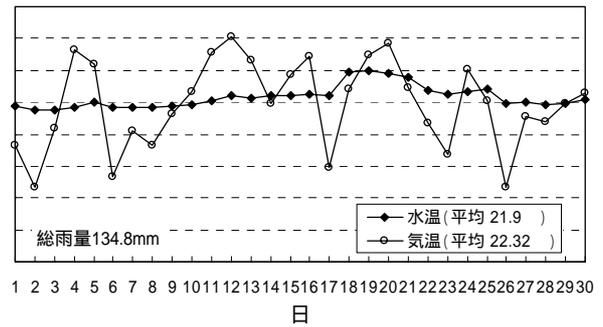
1 種はウネタケの仲間で、夜 9 時半過ぎに直径約 0.5mm の卵をたくさん産んでいました。このくらいのサイズだと、海の

## 定点観測

2009年 3月



2009年 4月



中ではゴミのように見えます。けれども‘サンゴの産卵’が頭にありますから、これがちゃんと卵とわかるのです。ところが、探しても産んでいるイシサンゴが見当たりません。「これは違う生き物かも」と思ってもう一度よく見ると、卵を出しているのはソフトコーラル、ウネタケの仲間だったのです。また、別の日にはカタトサカの仲間が、プラヌラ幼生を放出していました。やはり夜 9 時半過ぎで、幼生は長さ 0.9mm くらいで、ぼつりぼつりと海中に産み出されていました。最初は卵かと思っていたのですが、顕微鏡で見ると、すこし楕円形をしていて、水の中を泳いでいたので幼生とわかりました。同じカタトサカ類のヤナギカタトサカの産卵は、過去にニシハマで確認されています（冒頭の写真）。イシサンゴにも卵を産むものと幼生を出すものがありますが、ソフトコーラルも同じように両方のタイプがいるようです。

幼生を出すソフトコーラルにはツツウミヅタもいます。去年も含めて、ここ数年オケアノスの森山さんが、何度もその幼生放出を確認していて、研究所に教えてくれました。この種は、真っ白でとても大きなプラヌラ幼生を産みます。その長さは、伸びた時には 3mm にもなりません。産み出しているところの写真を見せると、たくさんのウミヅタの花のようなポリプ 1 つ 1 つから 100 個体ぐら

いの幼生が出ていて、群体全体が泡にまみれたような様子でした。森山さんからは、ツツウミヅタの放精のような現象の情報ももらいました。

もちろん、慶良間の海には、他にもたくさんの種類のソフトコーラルがいます。そして、そのほとんどは卵や幼生などによる繁殖が確認されていません。もしも見かけたら、ぜひ研究所にも教えてください。写真や産みだされたものの現物があれば、なお貴重な資料になりますが、種類や場所、時間の情報だけでもありがたいです。

### 阿嘉島の海より

ゴールデンウィークも終わり、島は少し静かになりました。そしてゴールデンウィークが終わるといよいよサンゴの産卵の季節です。この時期には毎年阿嘉小学校の産卵観察会がおこなわれていますが、早いもので、今年で 5 年目となりました。今年の観察会は 6 月 6 日 - 12 日を予定日としているのですが、本文中にもあるように今年は水温がなかなか上がりません。このまま梅雨入りするとさらに水温が上がりにくくなるかもしれません。6 月に産卵がないということはないと思いますが、水温の上がり方しだいでは産卵予定日が少し後ろにずれるかもしれません。もうちょっと様子を見てみようと思います。